

不登校の子どもたちを受け止め、 学びへ向かわせるために 学校ができることは



岐阜聖徳学園大学教育学部
後藤綾文

本日の流れ

- 子ども理解

- ・子どもたちの生きづらさ、所属感のなさ
- ・多様に認められることの重要性

- 不登校支援への提案

- ・心理学者の視点から
- ・カウンセラーの視点から

学校の中での所属感のなさ

- 自分には秀でたものがないから、先生にも周囲にも認められない
- クラスメイトに合わせておくと安心
- 仲の良い人だけと関わるのが安心
- 友だちの悪いところを挙げて、自分の評価や立ち位置を上げる



自分を肯定する評価軸が少ない

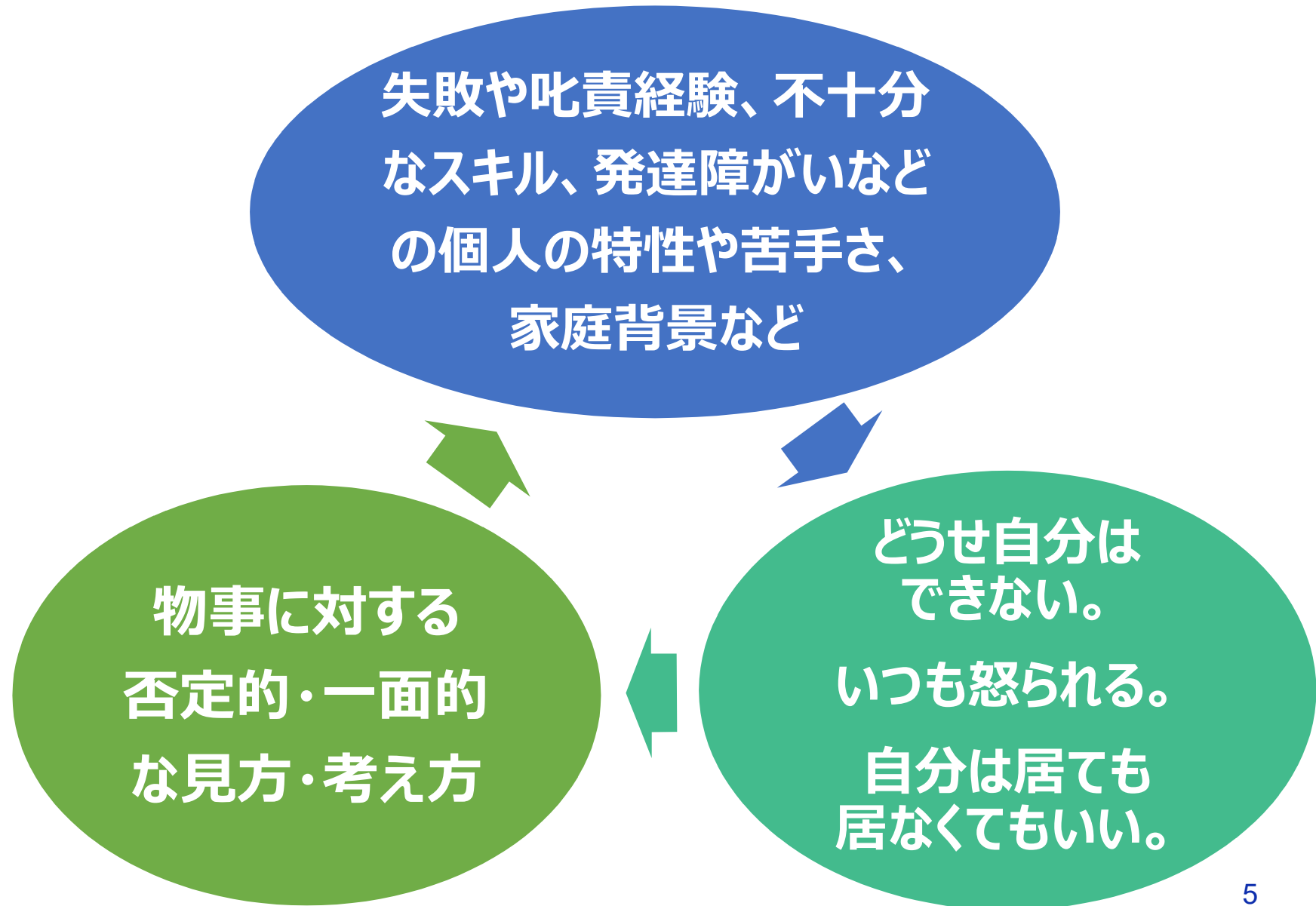
学校の中での所属感のなさ

- 他者を思いやる、他者のことを考えることは大事とわかっている。
- ○○さんはすごい、このクラスは悪いクラスじゃない。でも、自分はクラスで認められていない。
- 他者の命は大切にできるけど、自分の命は大切と思えない。

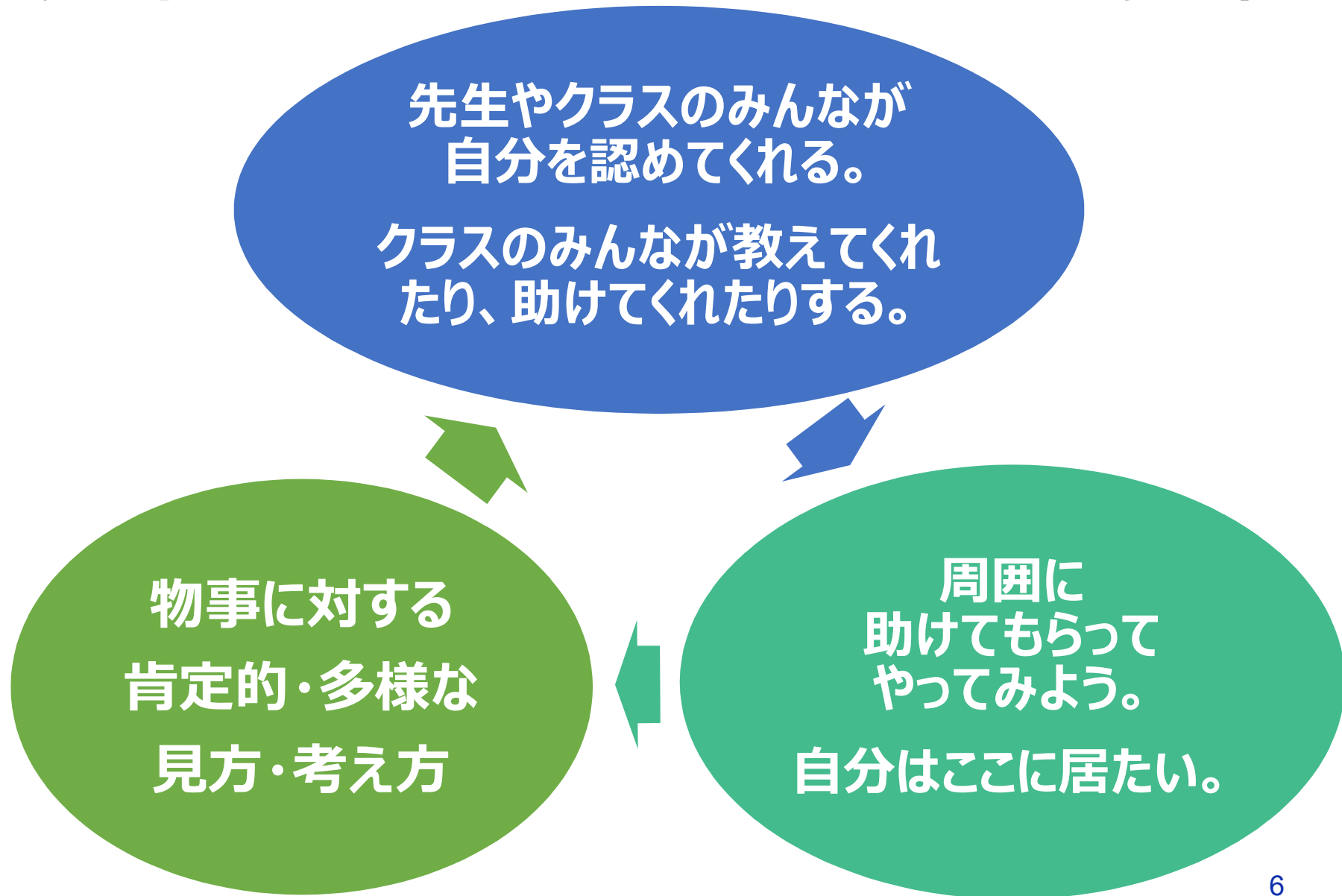


自分を大切にする方法を知らない

多様に認められることの重要性



多様に認められることの重要性



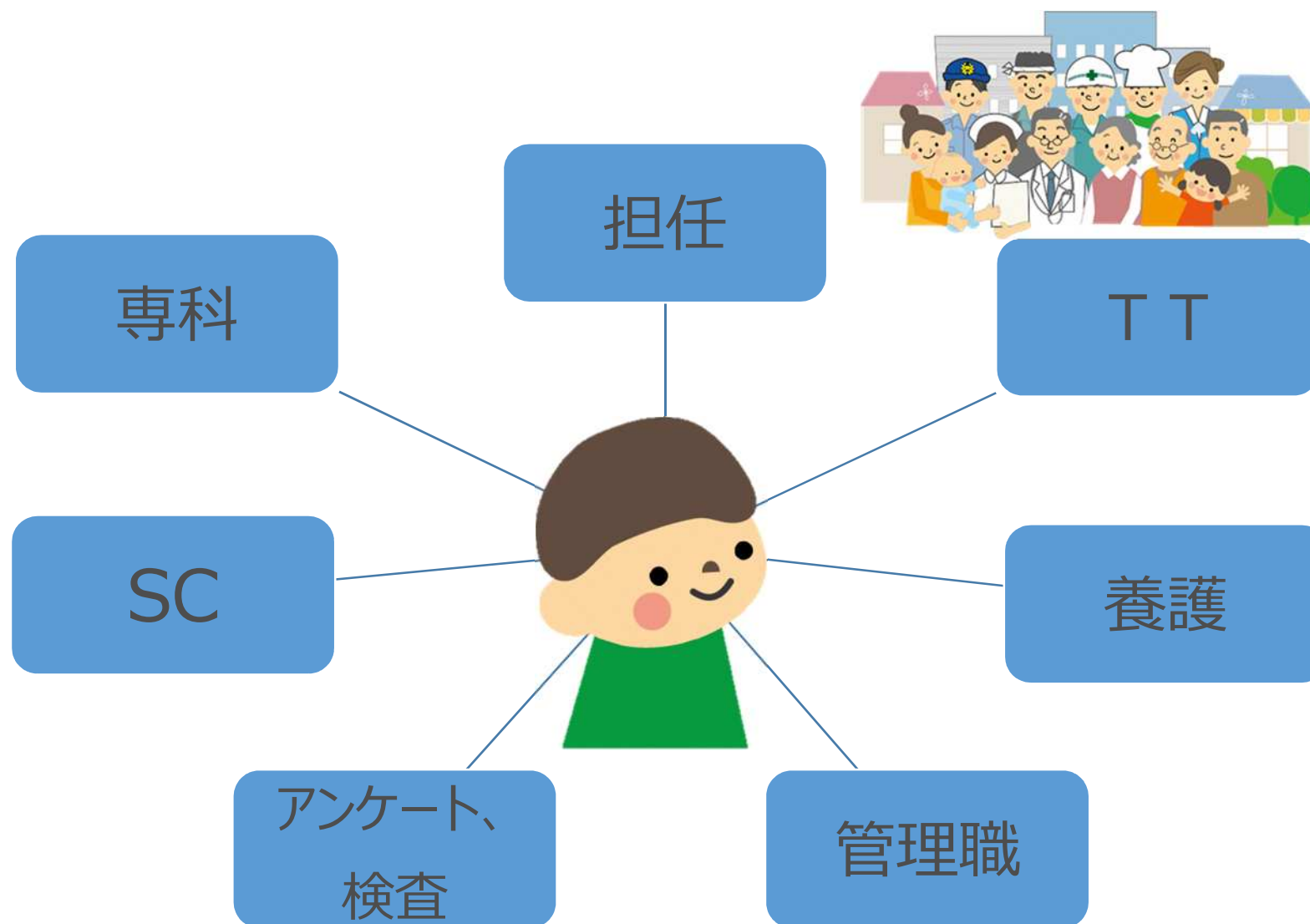
自死や自傷行為の予防には、
家族や先生方、友人等とのつながりが重要



子どもを多様に認める

家庭

地域

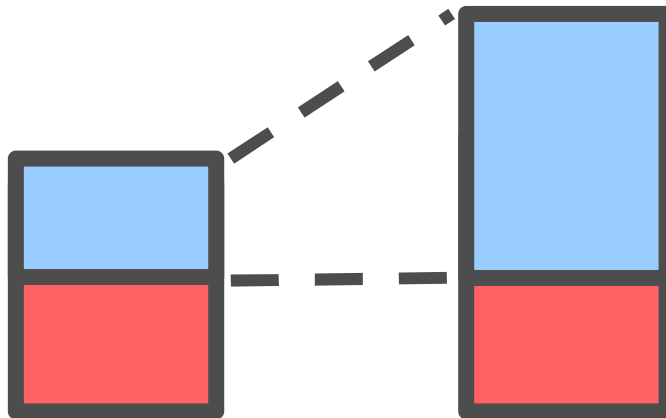


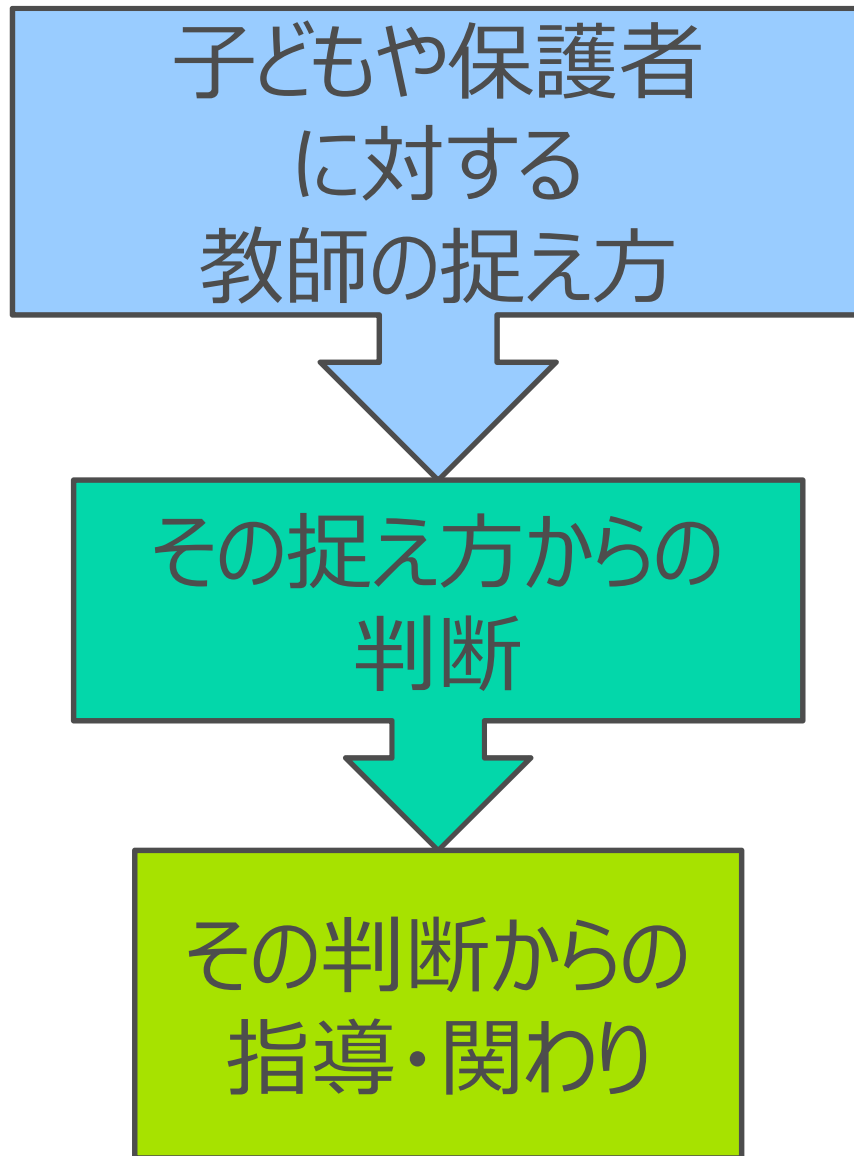
子どもを多様に認める

- ① **個人のリソース(強み・資質・資源)**
に注目する
- ② **集団の中での個人**
に注目する

①個人のリソースに注目する

- 原因や問題をなくすのではなく、子どもや保護者がもともと持つ強み、がんばっているところに注目する。
- 悩みや問題を減らすよりも、できるところや良いところを増やし、相対的に問題が小さくなるようにすればいい。





たった1回かもしれない
「例外」を見逃す。

||

子どもや保護者が一番
見てほしいところ

↓

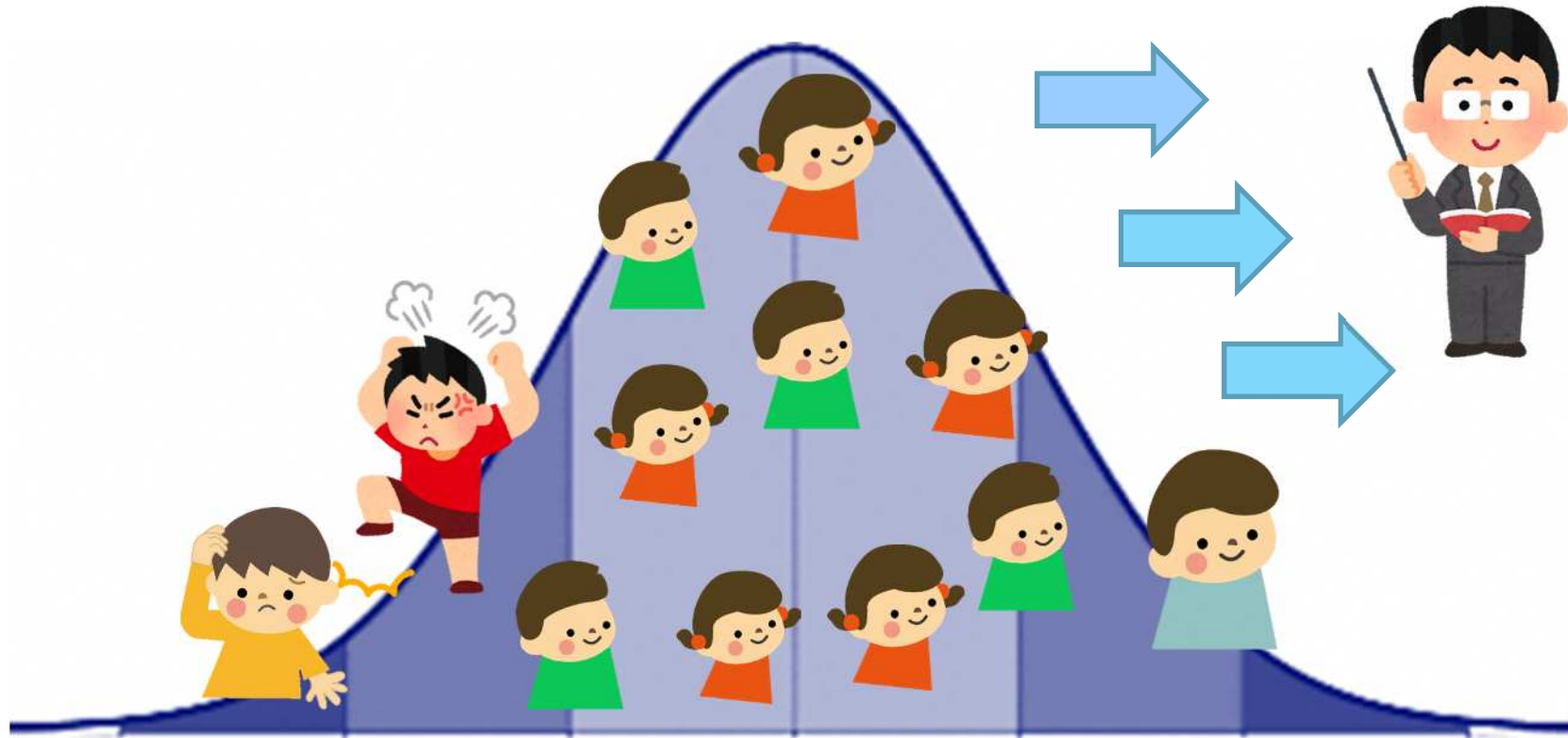
「先生はわかってくれない」

- 大人は否定していないつもりでも、子どもにとって否定されたと感じられる言葉がある

例：「そんなことないよ」「大丈夫だよ」
「わかるよ」「大袈裟だな」
「そんな小さなことで悩んでるのか」
「どうしたんだ？いつもと違うじゃないか。」
「あなたは●●だもんね」「実は〇〇でしょ」
「死ぬなんて言っては駄目」「元気出して」
「先生もつらいときがあったけど、人生はつらいことばかりじゃない。」



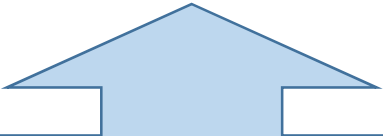
②集団の中の個人に注目する



集団の雰囲気、子どもは動く！

問題行動を**起こす**子どもは、 支援が必要？

- 問題行動を起こすと、先生が制止して、個別で話を聞いてくれる。
- 先生方も、子どもの「関わってほしい」「認めてほしい」気持ちを感じ、「個別で話せばわかる」と捉えている。



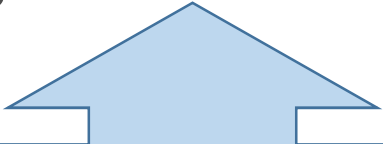
問題行動を起こすのは、先生や周りの子どもに無視されるより存在意義を感じられるから！

本当は学級の中で、「認めてほしい」！

問題行動を**起こす**ことで訴えている！

問題行動を起こさない子どもは、 支援が不要？

- 問題行動を起こさない、「ふつう」の児童。大人しいかなと思われる子もいる。
- 先生方も、子どもが問題なく、クラスで過ごしていると捉えている。



問題行動を起こさないのは、先生や周りの子どもに認められたいから！

本当は学級の中で、「認めてほしい」！

問題行動を**起こさない**ことで訴えている！

あの子は
仲間とうまく関わること
ができない



あの子に
仲間がうまく関わろうと
しない学級

あの子は
自己肯定感が
低い



あの子の
自己肯定感が
低くなる学級

あの子は
学級に来づらい

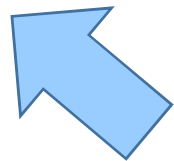


あの子が
来づらい学級

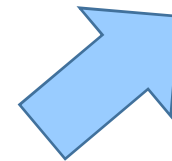
でも、教師は
指導しなくちゃいけないので。。。

生徒指導上
の評価軸で
指導すること

多様な
評価軸で
認めること

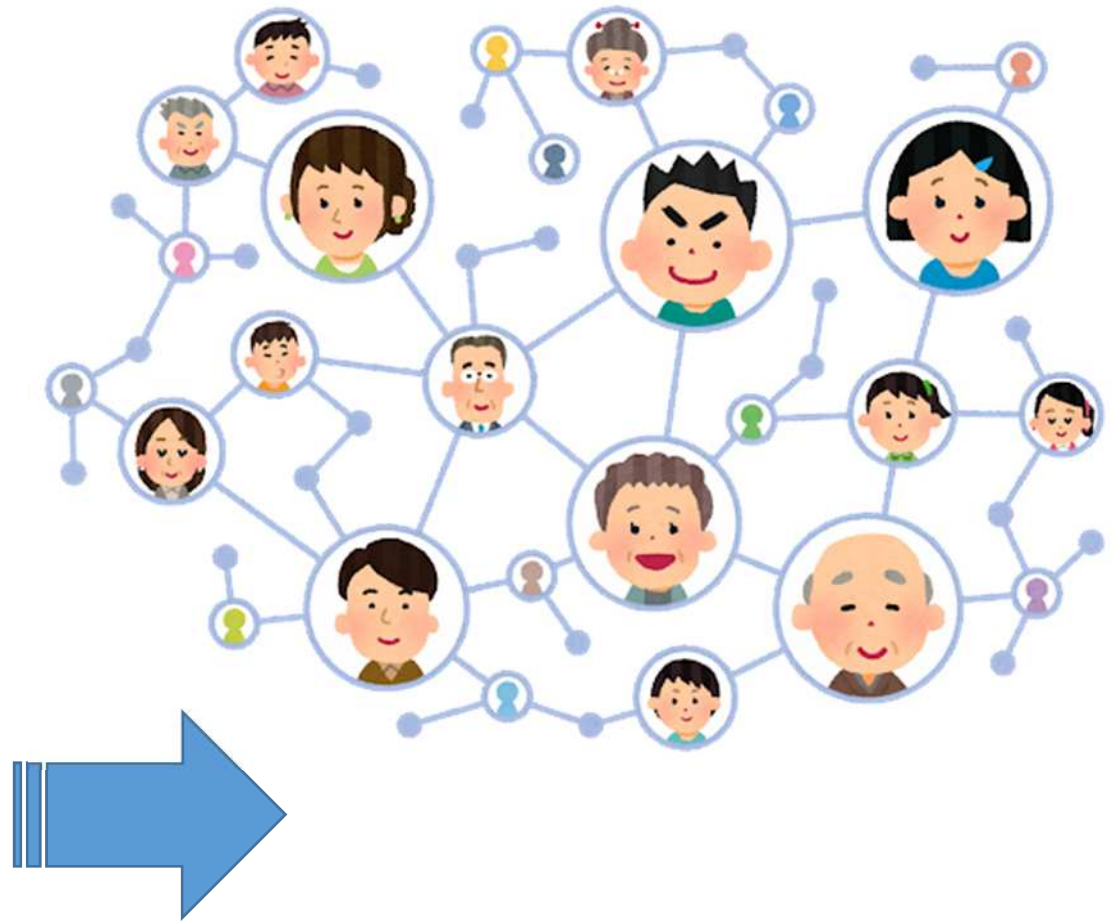


共存する！



共存させないから、子どもがしんどくなる！

わからないこと、苦手なこと、難しい
ことを表現してもいいかなと思える
学級・学校



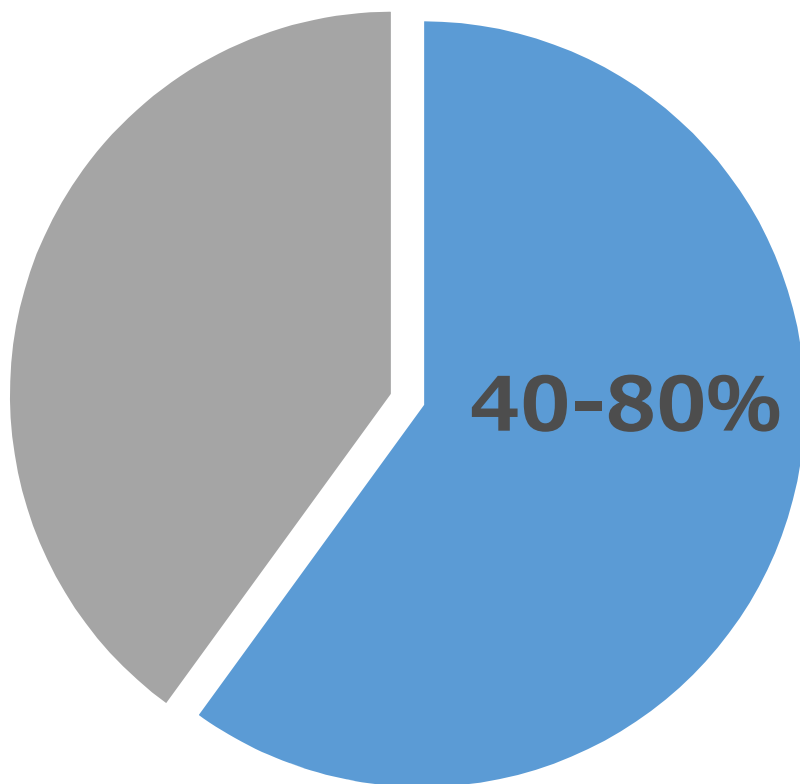
これからの不登校支援の提案



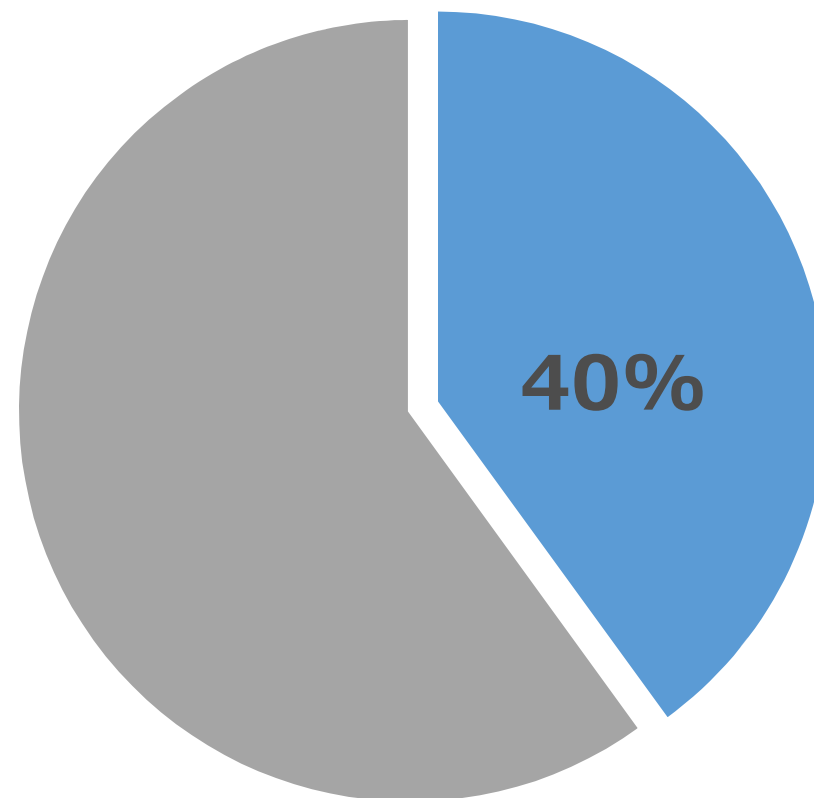
援助要請(援助希求)のできる学校を
目指す教育プログラム

= 困ったときに他者に援助を求められる学校

子どもたちは援助要請しない



- 悩みや不安がある
- 悩みや不安がない



- 相談しない
- 相談する

「SOSの出し方に関する教育」

狭い意味での
自殺予防教育
＝心理教育プログラム



SOSの出し方
に関する教育

自殺予防教育

早期の
問題認識

援助希求的
態度の促進

下地づくりの教育

生命を尊重する教育
心身の健康を育む教育
温かい人間関係を築く教育

校内の環境づくり

健康観察 教育相談
生活アンケート

広い意味での
自殺予防教育
＝健康教育



教科教育

道徳、保健体育、社会、国語等

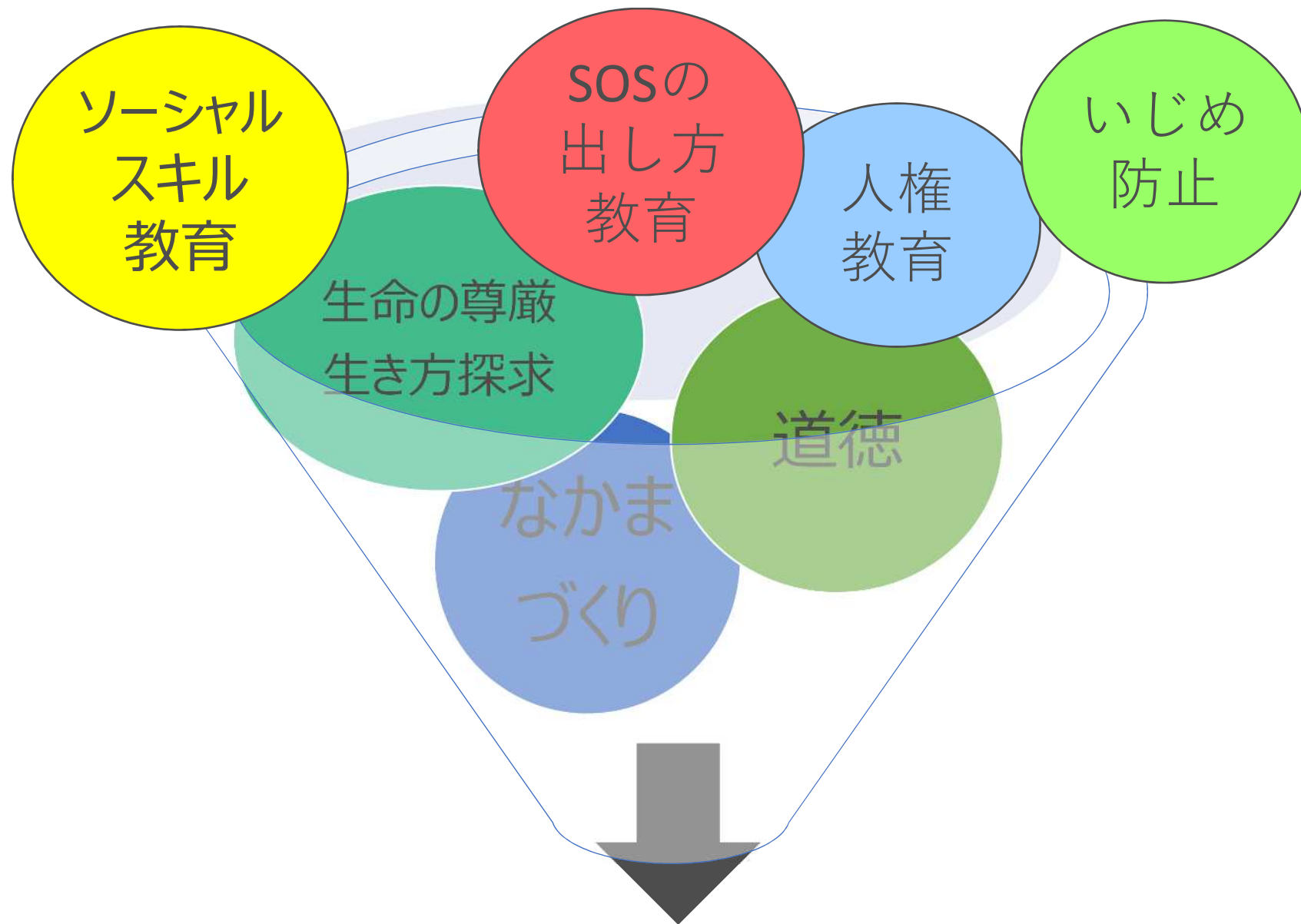
なかまづくり

特別活動、総合、部活動等

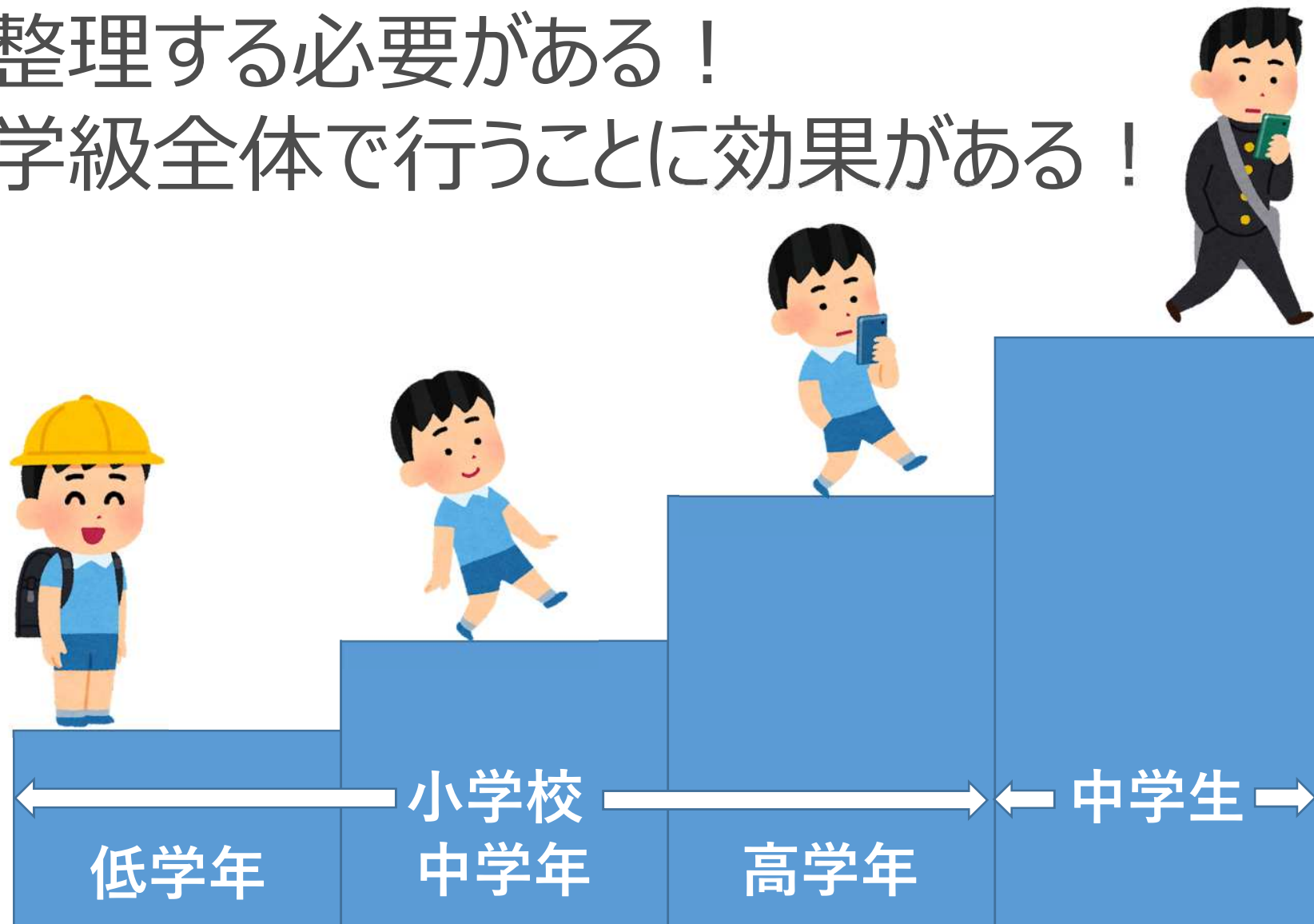
教育相談体制の充実

教師による
子どもへの多様な見方を
軸にした対応

文科省（2021）児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議
桑名市教育委員会（2019）精神的な不安定さを抱える子どもの理解と
支援について
より作成



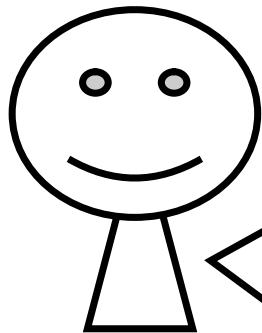
- 各学校段階で獲得すべきものを整理する必要がある！
- 学級全体で行うことに効果がある！



実は授業づくりにもかかわる

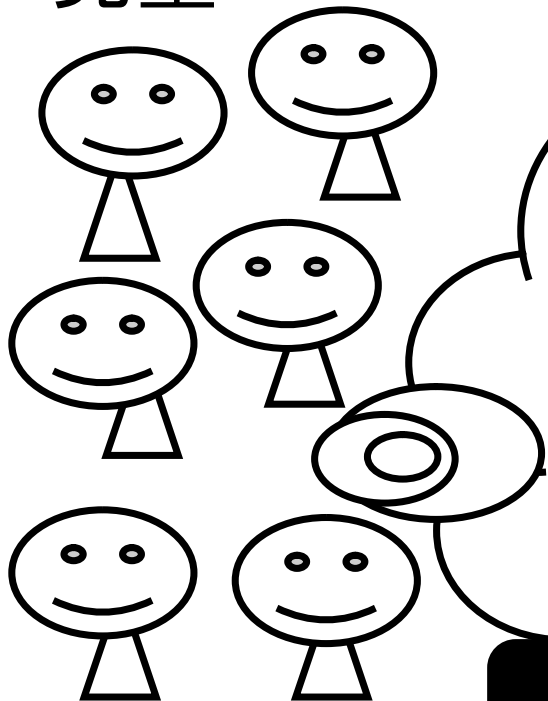
- 学業や人間関係がうまくいかない、体の調子が悪い、学校生活にやる気が出ないなど、日常の学校生活を通して、**悩みや問題を抱えることは誰でもあること、一緒に考えていくことを伝える必要がある**
- まず学習面において他者に援助要請してよかった経験を積むことで、その後の心理面の援助要請につながる

教師



- ・質問や相談があれば、いつでも来てね
- ・質問や相談をすることは大事なことだよ

児童

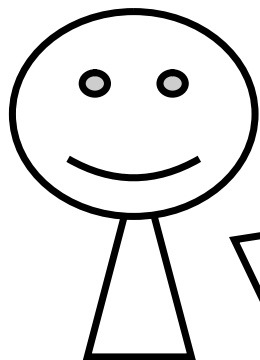


- ・先生は、質問や悩みがないか、普段から声をかけてくれる
- ・先生は、質問や相談をすると喜んで応えてくれる

影響

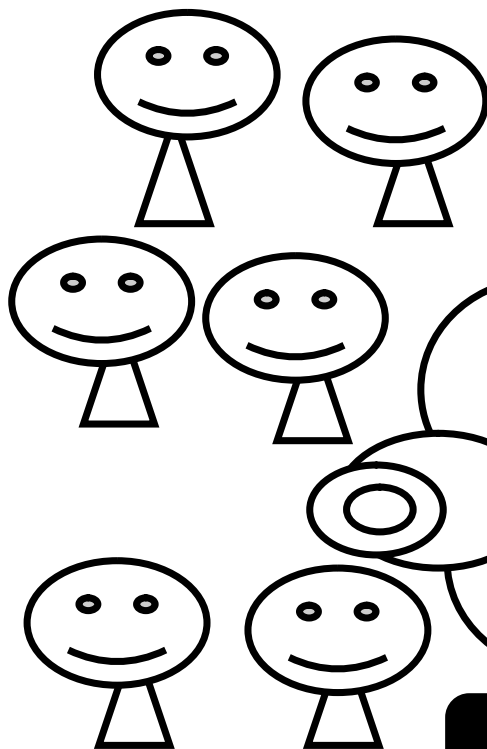
教師に相談・質問してみよう

教師



- ・他の子の意見や考えを参考にしてみよう
- ・お互いに質問や相談をシェアするのは大事なことだよ

児童



- ・先生は、友だちの意見や考えを聞くことは良いことだとほめてくれる
- ・先生は、他の児童からヒントやアドバイスをもらうことをすすめる

影響

児童同士で相談・質問してみよう

アプリで児童生徒の心身チェック 相談したい教員を指定可、岐阜市

教育

2022年5月26日



岐阜市は6月から、同市の柳津小学校と陽南中学校で、子どもの心身の状態をチェックするアプリの実証実験を行う。アプリでは、体調と気分を選択するボタンに加え、教員に相談したいことがある場合の「きいてほしい」ボタンも設け、子どもの心や体の変化にいち早く対応する。

アプリは、いじめ防止や不登校対策として、学校教材開発の「文溪堂」（羽島市）が製作を進めており、児童、生徒に貸与さ

れているタブレット端末に導入する。

<https://www.gifu-np.co.jp/articles/-/81036>

- 校務事務システムで保有する各種情報とともに、子どもの心身の状態を共有し、援助要請を受け止められるメリット

どの程度の子どもの訴えがあれば緊急性が高いのかなどは不明。学力や学習意欲、学校適応感などとも合わせて、このアプリでの管理の有効性を確認すべき。

学校の支援体制の改善

- 生徒指導上の諸問題に関する調査等のデータを新たな視点から分析しなおし、岐阜市の不登校の実態や特徴について明らかにする。
- 小学校から中学校の移行、低学年から高学年にかけての変化、地域性、いじめ被害などの要因との関連について検討を行う。



- 不登校支援のために必要な知識と技術を提供する教員研修と、岐阜県の教員を目標したくなる学生への大学教育に活かす。

学校の支援体制の改善

- スクールカウンセラーの有効な用い方ができているのか？
- 「とりあえず子どもの話を聴いてあげて」
- 子どもの相談内容を担任等が簡単にでも聞き取らず、SCの相談につなげて終わり
- SCの報告から、子どもの支援につながっているのか？
- 情報共有する時間がない
- 落ち着いて話のできる相談室がない



- 校内研修計画への参画、ケース会議への参加
- 子どもへのSOSの出し方教育、ソーシャルスキル教育、教職員研修の実施
- SCのカウンセリングが必要な子ども、教師が話を聴くことが必要な子どもの見立て
- SC用のタブレットを配給し、先生方と情報共有
- SC用のタブレットを配給し、児童生徒とのオンラインのカウンセリング

学校の支援体制の改善

- 不登校児童生徒が多いことに慣れてはいけない。
- コロナ禍の中、既存の枠組みの中でギリギリ適応していた子ども、新たな枠組みが作られる中で素早く適応していくことが難しい子どもがこぼれ落ちている。
- 常に変化する学校現場に疲弊する教師の援助要請が職員室でできているのか？



まとめ

- 不登校の子どもたちを受け止め、
学びに向かわせるために学校ができること

- 自分を多様に認めてもらえる経験が
あってこそ、自分を他者を物事を多様に
捉えることができる
- 教師やなかまとつながることで、
援助要請をして支えられることで、
居場所ができる

ご清聴ありがとうございました。



後藤綾文 (GOTO Ayafumi)
ayafumi@gifu.shotoku.ac.jp